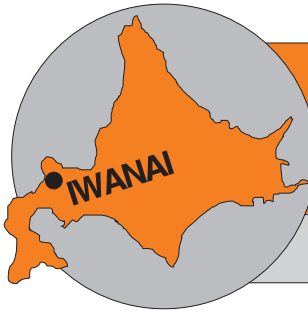




東京ふる里岩内会会報

■発行 東京ふる里岩内会
 ■発行 2019年10月1日
 ■編集 和泉 剛
 ■住所 松代洋子
 埼玉県川口市桜町
 5-7-19
 ■電話・FAX 048-281-0039

——— 楽しい今日と、明るい明日が見える ———

No. 29 / 2019



はじめまして

平成三十一年四月から、東京ふる里岩内会第六代会長に就任いたしました和泉剛と申します。会員みなさまどうぞよろしくお願いいたします。

ご存知の通り、私たちの東京ふる里岩内会は、諸先輩のご尽力により昭和五十四年に当初会員六十七名で立ち上がり、初代の会長は川埜勇先輩、二代目は栗林敏也先輩、三代目の中村尚武先輩、四代目は小島幸子先輩、そして五代目の伊野達哉先輩と続き、その後を引き継ぎ就任いたしました。

先輩諸兄が脈々と受け継いできた伝統を守り、岩内会の発展に多少なりとも寄与したいと考え会の運営に当たって参りますが、いかんせん経験の浅い身、その責務の重大さに改めて身の引き締まる思いであります。

私は大火の四カ月前の昭和二十九年五月に岩内町島野に生まれ、昭和四十八年に岩内高校を卒業するまで岩内で過ごし、今年六十五歳になりますが岩内会においては若輩者です。会員みなさまこれからもご指導よろしくお願いたします。

東京ふる里岩内会

時代は昭和から平成、そして令和へ

東京ふる里岩内会 会長 和泉 剛



新旧会長

前から岩内高校のホームページに当会の会報を載せて頂きました。ちよつと検索すれば「東京ふる里岩内会」にたどり着ける工夫も施しました。新しい仲間に加わって呼びかけ次の世代、更に次の世代にバトンを引き継げるよう努力して参りたいと思っています。

そうは言っても、会の運営には、いたずらに肩に力を入れることなく、自然体をモットーに行いたいと思っていますので、役員諸兄、会員みなさまのご支援を切にお願い申し上げます。

時代は平成から令和になりました。令和は岩内会にとっても再興（最高！）の時代にしたいものです。

熱く、そして知識豊富な役員の方々 本誌2頁に新体制の役員名簿を載せています。若い役員的情熱や知識にはいつも驚かされ励まされます。

今年四回開催の定期役員会では会員融和の為の斬新なアイデアが次から次へと持ち上がっています。今後、その実現性について前向きに検討し、会員みなさまに喜んで頂けるよう努力したいと思っております。私は、役員会のこういった自



一山本関と（十両昇進パーティーで）

一山本関十両昇進！吉報が届きました。この原稿は六月に書いています。岩内会としても動静を注目していた大相撲二所ノ関部屋一山本関が、夏場所で幕下東三枚目五勝二敗の好成績を挙げ、名古屋場所です十両昇進することが決まりました。暗く、悲しいニュースが続いたときにまさに一服の清涼剤であった。一山本関つばれ！



「多くの皆様に支えられ、 助けられた十六年に感謝」

岩内町長 上岡 雄 司

東京ふる里岩内会の皆様、ご無沙汰いたしております。

お変わりなくお元気のことと拝察し、お慶び申し上げます。

また、会員の皆様には、「ふる里岩内」に深い想いと物心両面にわたるご支援とご協力をいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。さて、私ごとではございますが、六月に開催されました第二回岩内町議会定例会におきまして、今任期を持って町長の職を退任することを表明した所でございます。

平成十五年に初当選させていただきましてから、「健全な財政運営」「産業の活性化」「安全・安心なまちづくり」「住環境の整備」の四つの柱を基本に町づくりを進め、全ての町民の皆様が「住んで良かった」と思える町になるよう」全力で取り組んで参りましたが、この四期十六年の在任中で、役場新庁舎の建設や財政健全化など永年の懸案事項の解決に尽力し、大きな達成感もあり、私なりに今後の町づくりに一定程度の道筋ができたものと自負しているところでもあることから、今任期を以って退任することが最良と判断したところでございます。

町民の皆様はもとより、会員の皆様はじめ、多くの皆様のご支援のお陰を持ちまして、着実に町政を進めることができましたことを、この場をお借りし、心から感謝申し上げます。

しかしながら、近年においては、人口減少と少子高齢化が進み、雇用や産業基盤が縮小し、地域に活力の低下をもたらしていると分析されているところであり、本町におきましても、人口減少に伴う地方交付税や町税の減収に加え、社会福祉関係経費や公共施設の老朽化に伴う維持管理経費の増加などにより、依然として厳しい財政運営となっております。

こうした状況においては、全ての事務事業について前例踏襲から脱却し、事業の必要性や実施効果、規模等の見直しに着手し、今後を見据えた計画的かつ健全な財政運営に努めていく必要があると考えております。

また、一方で、円山エリアにおいては、スキー場を核としたリゾート開発や、日本夜景遺産の認定、来年度にはパークゴルフ場が三十六ホールに増設されるなど、観光スポットとしての魅力がますます

ます向上していることや、後志自動車道「余市～小樽間」の開通により、今後、更に高速交通インフラが整備され、この地域と札幌圏や新千歳空港・苫小牧港との時間距離が短縮し、人と物の流れが大きく変わることが期待されるという明るい話題もあることから、魅力ある観光地づくりや、地域振興につなげていくよう取り組んでいくことが必要であると考えているところでございます。

このように、まだまだ解決しなければならぬ課題は山積しておりますが、残された課題には、時々の住民ニーズにあった新しい視点での解決も必要であり、これからは新町長の下で諸課題を解決していただけるものとご期待しているところでございます。

どうか、皆様には、今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、東京ふる里岩内会の一層のご発展と会員皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

東京ふる里岩内会
役員名簿

会長
副会長

(兼幹事長)

事務局長
理事

顧問
名譽顧問

大石浩之	庄崎健一	忠鉢端	川藤幸一	佐藤勝己	中野田	前村尚武	伊野達哉	上岡雄司	鈴木金三	野村健三	泉晃子	辻博行	納谷真二	相原利也	本村和治	壁邊弥弘	渡辺座	長谷川藤弘	佐藤慶弘	今口俊達	谷井村健志	武村庫雄	中高松義弘	住吉村力	中村興禅	尾上洋子	松下代和	松田泉剛
------	------	-----	------	------	-----	------	------	------	------	------	-----	-----	------	------	------	------	-----	-------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------

岩内町の明るい話題

岩内町出身の力士「一山本」が

十両（関取）へ昇進！

岩内町出身力士、一山本さんが十両への昇進を決めました。

一山本（本名「山本大生」）さんは、小学校から中学校まで岩内で相撲に励み、大野農業高校を経て、中央大学へ進みました。

その後、一度は大相撲への道を諦め、渡島管内福島町役場に就職したものの、その道を諦め切れず、相撲協会新弟子検査制限の新規定適用第一号として、厳しい勝負の世界に飛び込みました。

二〇一七年一月場所にて初土俵を踏み、二年半掛けて十両への昇



一山本関

進を決めました。
今後の一山本さんの更なる飛躍を応援しています。

鯨と数の子を活用した新商品続々！

かつて鯨漁で栄えた岩内町。

町の加工場では、最盛期の明治から大正にかけて、大量の水揚げされる鯨を全国へ流通させるため、高い加工技術が養われました。

製造される身欠きニシンと数の子は「岩内ブランド」として市場関係者から高い評価を得ております。

ここ数年の取組としては、町の加工場と岩内町のサポートセンターで連携し、若い世代や女性向

けに洋風の味付けをした「鯨のレトルト商品」が多く誕生し、今年には、「干し数の子・数の子調味料」がぐるなび公認の手土産セレクトシオン特選に選出されました。
岩内町としても「身欠きニシンと数の子」の付加価値が高まるよう「ふるさと名物」として応援宣言を行ったことを始め、今後もこういった取組を後押ししたいと考えております。



ニシン関係の商品群

円山展望台夜景が日本夜景遺産に認定

日本夜景遺産は、日本各地に埋もれている美夜景を再発見＆発掘し、観光資源としての成立を目指していくことを目的に、任意団体（日本夜景遺産事務局）による活動として二〇〇四年からスタートし、全国で二三五箇所が指定されております。

このたび、岩内町の円山展望台が新規認定となり、北海道では計十七箇所の指定となりました。函館、札幌、小樽など、名だたる夜景観光地が認定を受けている中で、道内町村では唯一の認定（自然夜景部門）であります。

町としては、認定を契機とした夜景フォトコンテストなどの記念事業を展開し、岩内夜景を全国にPRしてまいります。



夜景

新役員紹介

ご挨拶



理事 壁 治己

この度、東京ふる里岩内会の理事に指名頂きました壁 治己です。岩内会を築き上げてきた諸先輩の皆様とともにこれから一緒に活動できることを楽しみにしております。

私は昭和二十八年二月に御崎で生を受け、東小学校、一中、そして岩内高校を昭和四十六年に卒業しましたが、決して真面目な高校生ではありませんでした。社会人として同年四月に日本電信電話公社に入社し、田無市（現西東京市）が最初の勤務地でした。その後、多摩地区から都内と十数回の転勤を重ね、今思うと我ながら充実したサラリーマン生活を送り平成二十八年六月に退職しました。

故郷を離れ東京での生活が四十八年！早いものですね。

岩内には姉夫婦がおり、たまには帰省しています。海の幸、メロン、スイカ、トウモロコシやっぱ美味いですよね。それと海、堀株、杯、神恵内、島野、雷電温泉郷、弁慶の刀掛岩……こちら

も美しい景観が好きです。

我が故郷を自分が高校生の頃と

役員就任の弁



理事 本村 和也

みなさま、こんにちは。

事業部会・事務局担当の理事を拝命しました本村和也です。

横浜の戸塚に住んでいます。

二〇十七年の観桜会から東京ふる里岩内会の行事に参加しています。

銭函で生まれ、寿都の磯谷に暮らし、大学で札幌にでて二十歳で内地に来て今に至ります。岩内との

関係は、小学生の頃、湿疹（今ならアトピー）で協会病院に通っていたのと、岩内高校にバス通学して

いたこと、盲腸手術で入院したのも協会病院でした。そういう縁も

あり、四十年続くこの会に参加させて頂き、岩内に恩返しが出来ることとは大変嬉しいことです。今年

は十一月に還暦同窓会が札幌であります。そこで大いに本会を宣伝

して、ますます盛会になるように努めたいと思います。

今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

いたします。

役員就任のご挨拶



理事 相原 正利

この度、「東京ふる里岩内会」の役員にご指名いただきました相原正利と申します。簡単ではございますが、自己紹介と就任にあたっての挨拶をさせていただきます。

私は、昭和三十六年に神恵内村字珊内で四人兄弟（姉二人、妹一人）の三番目として生を受けました。

小学校は、二名だけの入学式でしたが只うれしかったことを記憶しております。その後小学校三年生の時に、岩内西小学校に転校、

二中、岩内高校と進み、札幌の大学を卒業後、東京の企業に就職し、

先日三十五年の勤続表彰を受けました。

「東京ふる里岩内会」との出会い

は、二〇十八年の新年会にいとこの中村健志に誘われて出席し、その年の十月の産直のお手伝いをさせて頂いたことがきっかけでした。

既に両親は、他界しており恵庭と札幌に姉と妹がおりますが、岩

内の実家も数年前に売却してか

らめっきり足が遠ざかって岩内との関係が薄くなりかけていた

ところに、現会長の和泉さんからお誘いを受け、快諾させていただ

きました。

「東京ふる里岩内会」では、総務部と広報部を兼務兼任させていただいており、ホームページの開

設など新たな試みも進めて参りたい

あらたに仲間入りした3名

入会時期	お名前	お住まい	岩内との関わり
H30/10	中川清一郎	東京都世田谷区	産直に立ち寄り
H30/10	中瀬 幸二	東京都江戸川区	産直に立ち寄り
H30/10	山下 直樹	東京都世田谷区	産直に立ち寄り

と思います。微力ではありますが、会の発展に貢献できればと考えております。

今後ともよろしくお願い致します。

寸感―岩内東小学校クラス会

副会長 中村 力

還暦を迎え、同窓会に出席する機会が増えて来ました。ところが、小学校のクラス会だけは呼びがからないう状況でした。ところが、ついに……。

一、実現のきっかけ

この度同じ幹事を務めたS君、彼とは小学校、その後も一中、岩内高校、更に大学もこれまた同じで、いわゆる「腐れ縁」の間柄。彼と会って組上に上るのが東小学校六年の担任だった川村先生。

「先生、いまだどうしてるかな、会いたいね」。しかし、話はいつもそこで立ち消えになっていました。

ところが、川村先生が札幌に在住しているとの情報が同クラスのN君から得られ、間髪入れず彼に連絡したところクラス会の実現まで発展。私も東京在住ながら今回の言い出しっぺの主犯格。S君を仲間に引き込み、早速、知る限りの友人に連絡を取ったところ、先生を含め予想超えの十八人が出席出来るとの嬉しい悲鳴に。

二、クラス会当日

東小学校を卒業後、札幌にてなんと五十二年ぶりの再会が実現。皆さん、六十四歳から六十五歳です。これが一気に十二歳の時に戻ります。大方の人は面影が残っていて誰かは判りましたが、何人かは変容が著しくわからない人も。川村先生も八十五歳になられて



クラス会

おりましたが、お元気なお姿、聲咳に接することができました。

幹事として私の挨拶と乾杯でクラス会を開始。皆さん良いペースでお酒を口に運んで、カミングアウト話もチラホラ出る中、次第に雰囲気盛り上がりつついくのが見て取れました。

三、その後おもうこと

今回の東小学校クラス会、頗る新鮮なひとときを味わうことができました。十二歳の少年・少女時代、まだ人格が固まっていなかった頃の自分を覗いたりするのも一興でしょうか。

岩内町役場訪問記

副会長 中村 力

二〇一九年四月十二日、岩内に帰省した際、岩内町役場と観光協会を訪ねる機会があり、岩内町のホットな情報を聴くことができました。

一、岩内町役場にて

猪口仁副町長と名刺交換した後、企画経済部長の井口元喜氏と佐藤博樹氏、総務部総務財政課係長の渡部桂一氏の四人と初対面ながらざつぱらんな雰囲気の中で次のようなお話を。

(一) 外国人向け観光強化

冬の風の強さは岩内の強みでも

あり、ゲレンデは常に新雪の状態、これを外国人スキー客が非常に好むという。又、「海が見えるスキー場」というキャッチにより岩内スキー場の魅力を発信して、外国人を呼び込みたいと熱く語っておいりました。

(二) ニシン漁の復活の兆し

最近、泊や寿都でニシンの群衆が見られて、小樽でも群衆は十年以上続けて確認されているようで、「岩内町の元氣化」の鍵は、今昔を問わずニシンかと強く感じました。二、岩内観光協会を訪問

その後、渡部係長に車で観光協会まで送っていただき、事務局長松田豊作氏と面談。松田さんも非常に気さくな方で、「朋有り遠方より来る」のノリで、岩内町の新商品の説明や関連カタログもいただきました。また、来年岩内会のメンバーで岩内町を訪問したいと告げたところ、「大歓迎！」との嬉しいコメントをいただきました。

東京ふる里岩内会も新体制になり、岩内町とこれからどういふ協力関係が出来るか改めて考えなければなりません。うわつらではない本音がお互いに言い合える信頼関係、それによりFace to Faceでお話できる機会を気軽に持てればいいなと考えております。

岩内高校創立一〇〇周年に向けて

岩内高等学校同窓会 会長 福嶋 尚之



日頃、東京ふる里岩内会には、本校及び同窓会に対して多大なるご支援とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。さて本校は大正八年に「岩内町立女子職業学校」として設立して以来、来年二〇二〇年、まさに東京オリンピックの年に創立百周年を迎えます。一世紀に及ぶ歴史の中で、昭和二十九年の大

火、本校の二度にわたる火災、基幹産業の漁業の衰退など多くの苦難を力強く乗り越えて、今日に至っております。

今日まで、岩宇地区教育の中心的な役割を担い、文化、芸術、スポーツに輝かしい歴史を刻み、先人の築いた「岩内魂」を継承すべく優秀な生徒が多く育っております。

今年三月の共和高校閉校に伴い、岩宇地区唯一の高校となりました。現在、普通科三間口、事務情報科一間口で、全校生徒は三一九名在籍しており、今年度で普通科単位制が完成します。また、来年度から事務情報科が単位制を導入した全国初の「地域産業ビジネス科」へ学科転換します。地域産業の担

い手の育成と地域への貢献を大きな目標としています。

創立一〇〇年の記念事業においては、昨年十一月記念事業協賛会を設立、私が会長を拝命、二〇二〇年九月二十六日（土）に記念式典並びに記念祝賀会を開催することが決定しました。現時点ではまだまだ詳細が見えてきませんが、和泉会長に逐一進捗状況を伝え、貴会の多くの皆様にお祝いしていただけるよう努めますので絶大なご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、貴会の益々のご発展と会員各位のご隆盛、ご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

東京ふる里岩内会と

ふるさと岩内を思うとき

会員 上 森 尚 子

昨年十一月の東京ふる里岩内会四十周年記念総会で、思いもよらず「功労賞」という表彰を受けました。伊野会長ほか役員の皆さんの心づかいに感謝します。ふるさとを離れ長い時間が経ちましたが、デパートで正月用品を買おうと立ち寄った際に、店員さんから「たまたまなら岩内産が一番おいしいよ」と言われた時は、我がことのように嬉しく思いました。こういった瞬間は、やっぱり私は岩内出身なんだとしみじみ感じます。また、別の機会には「アスパラガスは北海道の岩内という町が発祥なんですよ」といわれたこともあります。私たちのふるさと岩内は、海の幸も山の幸にも恵まれたすばらしい土地なんですね。

代々木公園で毎年実施している産直フェアは岩内の物産をまとめ



上森さん

て買えるので毎回楽しみにしています。今年も寄りますからまけてね。ふるさとの情報を発信してくれる東京ふる里岩内会の会長はじめ役員の皆様には感謝しております。伊野前会長も長年務められ本当にご苦労様でした。後を引き継ぐ和泉会長もこれから大変でしょうが役員の方々とどうぞ宜しくお願い致します。令和になっても岩内会が隆盛でありますように……。私たちも微力ながらお手伝いさせていただきます。

東京ふる里岩内会「万歳！」
「万歳！」

今年の同期会は

三泊四日の鹿児島旅行！

会員 家 野 加寿子

同じ故郷の出身者が集まる「東京ふる里岩内会」の行事を毎回楽しみにしています。今年の目黒河畔での観桜会も楽しく参加させてもらいました。

岩内在住の岩高の同期（昭和二十九年卒）を中心に「二日会」という会を作り親交を深めておりました。しかし、メンバーの高齢化で二日会は解散してしまいました。私が有志による旅行会は今も続いています。

私は、平成九年から旅行に参加させてもらっていて、今回の鹿児島への旅は十三回目の参加でした。

出発前の天気予報はあいにく雨マークだったが、一日目は曇り、知覧特攻平和会館では特攻隊の遺影に胸がつまる思いでした。今の平和に感謝です。二日目は予報に反し晴天に恵まれ仙巖園（磯庭園）では島津のお殿様はこんな景色の良い所に住んでいたのかあ……と思っただけでしたが如何せん時間不足でした。そして、夕食時、お酒が入り昔話に花が咲き中学生の時に酒やタバコを吸って先生や親に叱られたことや、遊郭にも話が及び皆笑いがこぼれ楽しい時間を過ごしてきました。

この旅行が今日まで続くのも、多感な時期をみんなが同じふるさとで過ごしたことだと思う。今は住む場所が違っても会うと自然に昔に戻れる。毎年岩内から「行く」と、声を発してくれる進藤さんや計画の立案は芳賀さん、牧野さんがいるおかげで今年も岩内から三人、札幌から三人、旭川から一人、東京から私と熊谷京子さんの二人、計九人の八十三歳の旅行が今年もこうして実現しました。行く時はこれが最後といいながら帰りにはまた行くべとなります。気の置けない仲間といい人生を送らせてもらっています。

ふる里岩内町訪問ツアーを計画中です！

事務局長 高 松 庫 雄

北海道が鮮やかな錦秋に染まる来年（二〇二〇年）の九月下旬、当会では有志を募り、「ふる里岩内」訪問ツアーを計画しています。

私が岩内に居た頃（昭和四十年代）しよっぱい塩鮭が一般的に食われていましたが、現在は、冷凍技術の高度化や稚魚の放流事業に寄り、生でも食べられる美味しいサケが毎年八月下旬から九月下旬頃に水揚げされ漁獲量は一七〇ト

ン（平成三〇年度・岩内漁協）とのことです。また、岩内町で鮭の遡上を見れるのは、野東川河口で必見の価値あります。

もう一つの話は、一九九九年に岩内高校の前身の岩内町立女子職業学校が設立され、数度の校名改称を経て、一〇〇周年の節目を迎えます。岩内高校と同窓会では、記念行事実行のため記念事業協賛会事務局を立ち上げ、打ち合わせ

の結果、次の内容で決定したとお聞きしています。

○記念式典 令和二年九月二十六日（土）

於 岩内高校
スキージャンプの葛西紀明氏の基調講演等
○記念祝賀会 同日午後
於 いわな高高原ホテル

東京ふる里岩内会からの参加も



仙巖園（磯庭園） 2019.4.25

熊谷 家野 伊野 進藤 牧野 芳賀 山形 小松 五百蔵

多くと見込んで戴いておりますので、参加者の募集をいたします（同封のパンフレットご参照）なお、記念行事委員長は総会に毎年出席頂いてる福嶋尚之氏ですので、今年度の総会では詳細をお話戴けると思います。

クルーズ船体験記 くまきに優雅な旅

会長 和泉 剛

岩内は日本海に面した漁港であることはご存知の通り。そのため小さい時から海や船に興味を持っていて、たまたま現在勤務する会社が港湾関係の会社だったことから海との関わりが一層深くなり自身でも小型船舶一級の免許を取得するまでになった。

今回経験したクルーズにも興味はもってはいたが、クルーズ船は庶民には高嶺の花、自分とは別世界のものと思っていたところ、三月の岩内会観桜会(花見)の際、松代副会長から廉価のショートクルーズの案内をもらい一気にテンションMAX。

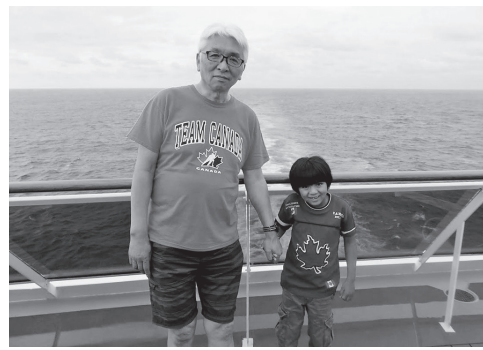
往路は横浜港から上海まで途中寄港せず三泊四日。帰路は上海から成田まで航空機。船内滞在は約五十時間のまさにショートクルーズ。

イタリア船籍のMSCスプレンドイダは超大型船で、今年小学校にあがった孫を誘って二人で優雅なクルーズを体験してきました。

船室は、海側バルコニー付の様で、一部の有料レストラン以外は全て含まれている為、アルコール代金の負担だけで夢のような三泊四日でした。東京タワーと同じ位の長さの大きな船が海の上を滑るように進む姿は圧巻です。機会があれば是非皆さんも。



幼時を過ごした辺りから岩内岳をのぞむ



お孫さんと和泉さんクルーズ体験

岩内岳は優しく美しく

会員(旧前田村出身) 酒井 啓 輔

「岩内」は小学校一年生まで育った、ただただ懐かしい故郷です。

二十年ほど前、中学生のとき以来久しぶりに訪ねました。まずがベ坂を上がつて墓地に行き、先祖の墓仕舞いをすませました。それから高台小学校一年のとき担任だった音羽(旧姓)先生と同小の跡地に立って往時を偲び、先生のご主人の車で私が幼時に住んでいた共和町西老古美(当時は前田村)に行きました。

優美な姿の岩内岳、家があった辺りの緑豊かな畑、子供の足で一時間ほどかけて岩内の通称教会幼稚園と高台小学校に通った曲がりくねった道々……思い出深い風景が迎えてくれました。ただ幼い目には富士山のようにそびえていた岩内岳が、思いのほか低かった……(笑い)

私の先祖は明治中期、祖父方が会津から西老古美へ、祖母方が阿波から幌似へ開拓に入りました。

私は、その五代目です。父が道庁勤めだったので札幌で生まれ、終戦直後、西老古美へ。昭和二十五年に教会幼稚園、二十六年に、越境して高台小に通いましたが二十七年、帯広に引っ越しました。

——時を経て、札幌の高校の先輩、松代洋子副会長とお知り合いになり、幼稚園も同窓と伺いまし

た。そして岩内会へのお誘いを受け、「私、共和なんです」と申し上げたら(以下、翻訳機)で北海道弁に「そつたらこと、なんもさ。共和は岩内の一部みたいなものつしよ。会にも共和の人、いっぱいいるんだわ」とドサンコの大らかさ!

それなら、と四年前から総会に馳せ参じているのですが、事実、共和の方々が一角を占めていらっしやる。初参加のとき、たまたま同じテーブルだった高橋俊夫さんの幌似のご実家が私の祖母の生家のお隣さんでビックリしたり、前田や発足生まれの同世代の方々と共通の思い出話が尽きなかったり。

そんな、いつも温かい気持ちをお土産にただいて帰る集いで一番の傑作だったのは一昨年でしたか、上岡町長さんの大演説。「間もなく新幹線が「我が町」を通ります。函館も札幌も、内地のあっちもこっちも新幹線はクルマで一、二時間の圏内にある。岩内もちよつと行けばビューと走るのが見えるんだから、これは立派に「沿線の町」とPRできます。道庁の許可もいただいております!拍手喝采でしたね。

*前述の頃に教会幼稚園、高台小に在園・校、音羽先生をご存知の方、また西老古美に縁のある方がおられましたら今秋の総会でお声をかけてくだされば嬉しく存じます。

郷土の力士「一山本関」 新十両昇進祝賀会！に参加して

岩内高校 第二十四期 須貝茂夫

令和元年六月十七日、ロイヤルパークホテル（水天宮）にて一山本大生（いちやまもとだいき）の新十両昇進祝賀会が開かれた。

壇上に師匠の二所ノ関親方（元大関・若島津）と女将さん（元歌手・高田みづえ）、大銀杏を結び袴姿が初々しい一山本関が登壇すると、会場からは割れんばかりの拍手と、「一山本！」「昇進おめでとう！」の歓声が響き渡りました。

岩内から駆け付けたご両親、岩内相撲協会関係者、二所ノ関部屋後援会の方々と、そして東京ふる里岩内会からも有志が駆け付け、アットホームで明るい雰囲気なかで二〇〇人を超える皆様と共に祝福をしました。二所ノ関親方からは「弟子も頑張っています。応



郷土の力士

是非とも、東京ふる里岩内会も「一山本関後援会」の発足にご尽力されることを熱望すると共に、その一員として参加出来る日を楽しみにしております。

私にとつては「一生に一度だ！」の祝宴に立ち会うことができ、感激の極み。未だ興奮冷めやらず、アードスコイ ドスコイ。

北の大地 岩内町 産声あげた
大生ちゃん（ホイ）
令和元年五月場所（ホイ）
東幕下三枚目 五勝二敗の
成績で（ホイ）
十両関取 一山本 新元号も
令和一年（ホイ）
さらに稽古で磨きかけ 目指
せ幕内・三役と（アードス
コイ ドスコイ）

各地に常駐理事を新設しました

会長 和泉 剛

私たちの東京ふる里岩内会は、現在、会員数の減少や高齢化が進み、会存続の過渡期にあると危機感を抱いております。

そのため、岩内会では若手役員の力を借りてFacebookやTwitterを活用し若い人達向けの情報発信を行っています。さらに今後、ホームページの立ち上げも検討しているところです。

その目的は、情報化の時代であり、より多くの人の目に触れるところに岩内会の情報をアップし岩内町及び岩宇出身者に岩内会の存在を知らせることと入会を勧めることにあります。

近時の岩内会の入会者を見てみると、関東圏はもちろん仙台在住者、山梨県在住者、三重県在住者、大阪府在住者と居住エリアが広がっている事実もあります。

そこで、

○北海道常駐理事 納谷真二氏

○名古屋常駐理事 辻 博行氏

○大阪常駐理事 泉 晃子氏

の3氏に現地で情報を集め、こちらに情報を流してもらう事を特命事項として地域常駐理事に就任要請し快諾を頂きました。

「兄弟が東京にいるんだよね」とか「親戚が東京にいるよ」、「名古屋在住でも入会できるのか」といった情報をこまめに集めて貰い新規会員の増強につなげ、岩内会

としての受け入れ体制の多様化を図りたいと考え役員会に提案し了承されました。

当会の名前が東京ふる里岩内会なので関東圏の人しか入会できない！という発想を取っ払い広く会員募集を行い、岩内会の継続を願うことです。本誌ご高覧頂いてる皆さん！お知り合いをぜひ岩内会にお誘いください。

*岩内高校同窓会ホームページアドレス

Http://www.iwanai.hokkaido-c.ed.jp/index.php?page_id=103

東京ふる里岩内会 新年会開催

理事（総務部会） 相原 正利

平成三十一年二月二日、「東京ふる里岩内会」の新年会がいつもの松尾ジンギスカンで開催されました。今回は、長年岩内会を引っ張って頂いた伊野会長がご勇退され、和泉新会長の就任という新しい体制になることの報告がありました。

伊野会長、長い間誠にお疲れ様でした。これから岩内会への変わらぬ愛とご支援をお願い致します。

体制が変わってもジンギスカンの美味しさは不変です。一年の始まりに幼少の頃から慣れ親しんだジンギスカンはたまりません。東京

観桜会 二〇一九

理事 本村 和也

今年も雨は降らず、我が東京ふる里岩内会観桜会は昨年と同じく、十二時池尻大橋駅に二十余名が集合し、目黒川を散策し、懇親会場で大宴会+カラオケで大いに盛り上がりました。

今年は、台湾から王さんとその友人が参加されたり、雷電海岸の旧道を走破し何度も岩内を訪れているという内地の人の水本さんが息子さんと参加されたり、石井さんはお孫さんと参加されたりで、何時にもまして賑やかでした。

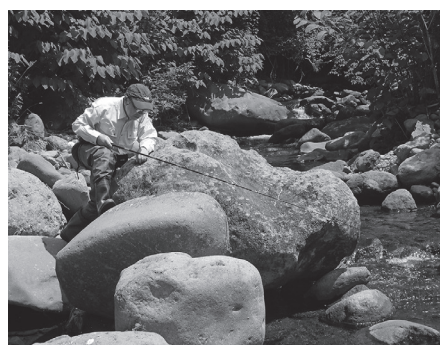
花見にはお酒がかかせませんが、

清流に出会いを求めて

副会長 下田 和房

七月の声を聞くと何故か心が騒ぐ。その心とは、溪流の女王（山女魚やヤマメ・北海道ではヤマベ）と会えるからだ。毎年、七月五日から十日まで、岩内に入る。釣行の為でもあり、今年で七年連続となりました。釣行のエリアは、雷電の山中を始め、ニセコ山系・積丹半島の溪流です。山女魚・エゾ岩魚に会いたくて数時間溪流を登る事になるが、気が付いたら別世界に入ってしまった。熊・蛇等々野生動物の縄張り。そのような危険を冒しても出たい恋人なのです。そんな訳で心技体！を維持出来る限り出会いを求めに行きたい。

話は変わりますが、この日程は神社の例大祭の時でもあります。実家が神社通りに面しており、玄関前は屋台で大賑わい。又、最終日の宮入りは赤坂奴、御神輿



清流

六、くろうまの焼酎や多良川泡盛、濁り酒山伏にバック月桂冠にウイスキーもあり、一同大満足でした。カラオケも当然盛り上がり、お孫さんのJK（女子高校生）、しつとりご婦人、マイクハナサズズの男性陣が歌いまくり、全ての観桜会行事をつながく終えました。



観桜会

第二十五回 北海道産直フェア あの町・この村・この味覚

理事（産直担当） 今 慶範

今年の北海道ふるさと会連合会産直フェアは、「北海道フェア in 代々木」・ザ・北海道」と共催で、代々木公園B地区イベント広場に於て、十月三日（木）～六日（日）四日間開催される予定です。東京ふる里岩内会を始め、二十四団体の「ふるさと会」が市町村のPRをしつつ、地域の特産品を山積み陳列して、元気に販売いたします。「東京ふる里岩内会」のブースで、約二十品目（ほっけ・宗八かれい・ゆで水ダコ・たらこ・鰯切込み・鮭トバ・松前漬・チーズ大福・雷電メロン・男爵いも等々）の岩内町及び岩宇地域の特産品を取り揃え販売する予定です。

さて、ここで昨年の産直フェアを振り返ってみると、開催日は十月五日（金）～八日（月祝）の四日間でした。初日の天候こそ曇り一時雨でしたが、期間中は概ね天候に恵まれ、お客様のご来場も多く、盛況でありました。（因みに、期間中の来場者数は四十八万人を上回ったことです。我々の岩内会のブースにも多くの方々にお立ち寄り頂きました。即席の販売スタッフは、若手とベテラン女性を配置し「なまらうまいよっ!」「そうだよさ」「わいやだなー」の岩内弁が飛び交い岩内会の持ち味

である「気合（気前）」と男前と女性スタッフのきめ細かい特産品のPR・対応」で多くのお客様に購入いただき、全商品完売することができ売り上げも前年を上回ることができました。

今年も産直部を中心に打ち合わせを重ね、皆様にふる里の思い出と美味しさをお届けできるよう取り組んでおります。会員の皆様のご来場を心よりお待ちしております。お越しにならない方のために、この会報と一緒に予約注文書をお届けいたしますのでご用命ください幸いです。



会長退任のことば

名誉顧問 前会長

伊野 達哉

北国では「ナナカマド」の紅葉が終わり、空から白いものがちらつく季節を迎えようとしております。会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。

昨年の秋の第四十回記念総会を区切りに岩内会会長を退任させて頂きました。この間のひとかたならぬご協力に感謝申し上げます。

まさに光陰矢の如しで、平成七年に新宿三角ビルを会場に始まった北海道フェアが今年も代々木公園で第二十五回として開催されます。岩内会は一回目から参加し、それが今も続いていることが良い思い出です。

更に岩内会が末永く、皆様の健康と会の発展を心からお祈りし退任のご挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。



伊野前会長ご夫妻

横浜点描

よこはまてんびよう

元東京ふる里岩内会会長 中村尚武

片雲の風にさそわれて生涯漂白の旅をし続けた芭蕉は旅を栖とした。されば、芭蕉は生まれ故郷と離別し、道行く先々の心を旅の心とし、それを故郷に置き換えて命を重ねたのであろうか。

横浜に居を構えて早十数年、友人達に乞われるま、港巡りの顛末を今回記述してみることにする。櫻木町駅を降り、数分も歩くといきなり急勾配の三連のエスカレーター、更に続く数百米の動く歩道を渡ると、地上三〇〇米、七十階建ての超高層ビルの入り口が待ち構えている。五層の吹き抜け大空間、それを取り巻く大回廊



太平洋横断中の帆船 日本丸

に無数の店舗が飾り立てている。行先を間違えれば即迷子になる。ここは脇見をせずひたすら流れに沿って前へと歩を進める。コンサートホール、市美術館、国立国際会議場、更にはヨットの帆をイメージした例のインターコンチネンタルホテル等夥しいホテルが立ち並ぶ。この辺で、早くも我が年寄族は、雄図空しく目疲れを覚え、案内のパンフレットを放り出し、「水を!」「ビールを!」、そして「焼酎の水割りをして」と叫び、ついでに「海は何処だ!」と辺りを見廻す。そのホテルの裏が待望の海だと説得する。「海で泳ぐのか?」の質問に半ばあきれ、浮きドックに建てられた二階建洋館を

指し、そこから港を横断する小型通船に乗船、赤レンガの倉庫群を経由、大さん橋を右手に見ながら氷川丸の繫留されている山下公園に向かうのだと一気に説明。延長四五〇米に及ぶ大さん橋には、船腹の上にとんと高層のホテルを横倒しにした様な十万吨クラスの巨大な客船が二隻接岸中、その大きさに腰を抜かした年寄族は思わず押し黙る。運が良ければ、ヨロツバから回航して来た米空母エントープライズ（乗員五千人）が接岸している風景にさえ出会う事が出来る。通船を降り、やって来た巡回市バス赤いぐつに乗り換え、急坂を登り切ると港の見える丘公園に着く。展望台から港の全景を見下ろすと、中央に少し霞んだベイブリッジ、左手に今通って来たホテル群と横浜コスモワールドの大観覧車、そして右手本牧岸壁には二十万吨クラスの巨大なコンテナ船数隻がカマキリの化け物の様なガントリーグレーンの林立の下でコンテナの積卸しを急ぐ風景が見られる。公園は、嘗て外人居留地であつただけに見所は多いが省略、踵を返して近くの外人墓地へと取って返す。数人が並んで通れる程の細い曲がりくねった坂道を下りながら、時々柵越しに墓地を覗き込む。元町の商店街を抜け、高速道路をくぐると待望の中華街

に到着する。咽喉が潮風に干涸び、胃が空腹を訴えるが、何故か年寄族は再び押し黙る。ゴツタ返す雑踏、焼きソバでも強火で料理しているのか激しく鍋を叩く音、焼栗、豚マンをと叫ぶ呼び屋の騒々しさ、そしておびただしく発散する説明不能な臭いが狭い露地を塞ぐ。とにかく目をつぶり思いいつきの店のドアを押し開け、手垢にまみれたメニューの文字を指し何かを注文、そこで始めて茫然とする。ふと、ここで案内をし忘れた場所を思い出し、つき出しのピーナツ豆を口に放り込み追加説明を始める。

ランドマークタワーの右手脇を降りると、商船大学練習船日本丸が永久保存されている。半世紀前、弟が乗り込んだ白鳥の雄姿を誇る帆船である。職業柄海外勤務の多い彼でしたが、某日、横浜寄港の折、港のホテルラウンジで語った挿話が忘れられない。

「あれは丁度卒業実習最後の航海で、本船が太平洋横断サンフランシスコに入港の折でした。突然本国からの指示でソ連領ナホトカ港への回航を命ぜられました。第二次世界大戦に日本が敗れる数日前、突如ソ連は参戦し、怒涛の如く南下、日本将兵五十万は遠くシベリアの奥地に連行され、厳冬の未開の地で道路開削、森林伐採に従事させられました。今回その抑留を解かれ、後処理の引揚業務を終えた最後の引揚軍人、軍属百名程の日本送還が本船の目的でした。

ナホトカ港に接岸、本船は直ちにタラップを下ろすと、風雪に傷んだ軍服に身を包み、顔面髭に覆われ気力だけで生き抜いた彼等が、清々と隊列を組み乗船してきました。船長命で私達は直ちに総員配置に付きしました。登橋礼（遠洋航海出航折の最高儀礼）そして総帆展帆（二十九枚の帆を一齐に帆柱に展開する）を行いました。遙か異国の地に本船が白鳥に変じた一瞬でした。橋上にくつきり日の丸の旗がはためきました。多くの同胞の死を凍地に埋め、飢えと極寒の中に歯をくいしばり、同胞と助け合い、異国の丘から今、今、夢に見た一日千秋の故郷、日本への帰国だったのです。溢れる涙が甲板を濡らし、やがてそれは押え切れない慟哭に代わりました。戦いに敗れ、尚死者への鎮魂を祈り、同胞の絆にかりうじて生を得た深い感謝と感動が船内を包みました。本船は、帆がちぎれる程の満風を孕み全速で舞鶴港に向かいました。

私はデッキで小気味良く波を切る船先を見てみると、ふと誰かに肩を叩かれました。「これから君達若い人達の番だ。日本は必ず立ち直るだろう。頑張ってください。」軍属士官らしい人がそうつぶやき励ましてくれました。帰国后やがて、新生日本の政財界に参謀として活躍、その人ありと知られたS氏でした。」

第41回 東京ふる里岩内会総会 開催のご案内

東京ふる里岩内会の第41回総会を開催します。現在担当の幹事が楽しく、また記憶に残る会になるよう企画しています。乞うご期待。

日 時	令和元年11月9日(土)	場 所	アルカディア市ヶ谷 電話 03-3261-9921
受付開始	11時30分		(私学会館) JR・メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線 市ヶ谷駅 徒歩2分
総会懇親会	12時開始	会 費	懇親会費 8000円 年会費 2000円
	午後3時終了予定		

年間行事予定

総務部会

- ・第41回東京ふる里岩内会総会
令和元年11月9日(土) 正午から
アルカディア市ヶ谷(私学会館)
- ・新年交礼会 令和2年2月(予定)
- ・顧問役員合同会議 令和2年5月(予定)
- ・定例役員会 令和2年5月、7月、
9月、令和3年2月

事業部会

- ・桜鑑賞会 令和2年3月末～4月
上旬
- ・日ハム野球応援団と納涼会
令和元年未定

産直部会 (北海道フェアin代々木2019)

- ・産直フェア 令和元年10月3日(木)
～10月6日(日)
4日間(代々木公園B広場)

広報部会

- ・会報発行 令和2年9月中旬～10月上旬の予定
ご投稿をお待ち致しております。

事務局からの お知らせ・その他

一、会の運営は年会費をもとに行っております。年会費の納入は早めによりしくお願いいたします。

尚、会費の納入方法その他ご不明の点がございましたら事務局までご連絡ください。

☆年会費二〇〇〇円

「郵便振替送付方法」

振替用紙に必要事項記入の上、

振込金額を添えて郵便局窓口にお

出し下さい。

番号は

〇〇―四〇―四七〇―一九〇三

東京ふる里岩内会

事務局連絡先

高松 〇九〇―一六九九―六〇二〇

年会費についてのお願い

ここ数年、年会費の納入状況が低下しています。会報発行や会の運営は会員各位からの年会費を充当し実施しています。かかる状況をご理解いただき、会費の納入にご協力くださいますようお願い致します。

訃 報

青山真太郎さん(73) H30年5月逝去
伊畑秀三さん(67) H31年1月逝去
栗倉輝一郎さん(95) 令和元年6月逝去
心から冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今年は沢山の原稿に加えて中身の濃い原稿が多く、削るに削れず十二頁に。それでもボツにした原稿もあつて忸怩たる思いの編集作業の熱い夏でした。

松代 記